

県下一周駅伝、 思いがひとつに

2月18日(土)から22日(水)にかけて「第70回鹿児島県県下一周市郡対抗駅伝競走大会」が開催され、県内12地区の代表選手が53区間583kmを駆け抜けました。

本町からは、中脇健太さん(中沖小学校教諭)、児玉貴洋さん(自営業)、米永夏輝さん(大崎町役場)、久徳直弘さん(本町出身、京セラ鹿児島国分工場)が出走しました。また、70回大会記念事業として2日目1区に中学生区間が設けられ、大崎中学校1年の嶽野雅翔^{まさと}さんが第1補欠として選ばれました。

今年は3年ぶりに沿道での応援が可能となり、郷土入りとなった21日(火)、本町唯一の中継所である三文字中継所周辺では多くの方が選手を応援しました。

大会の総合順位は、日置チームが1位に輝き、曾於チームは11位という結果でした。



色鮮やかな雛飾りに うっとり

龍相いさ子さん(横瀬)が自宅を開放して作ったギャラリー「夢工房 龍宮」において、3月1日(水)から7日(火)の間、つるし雛や段飾り、自作の陶芸品が展示されました。

約100点のつるし雛はすべて手作りで、ウサギやナス、這い子人形、巾着など色鮮やかな飾りに、来場者は見入っていました。会場では手作りのピザやこんにやくなどの販売をおこない、収益は「子ども食堂いちごちゃん」の運営費に充てました。

龍相さんは「コロナ禍で癒しを求めている方が多いので、思い切って開催しました。楽しんでもらえたら」と話されました。3年ぶりの開催となり、初日から待ちわびた多くの方が訪れました。



大崎町内の小中学校に台湾バナナ寄贈

大崎町内の小中学校の児童生徒と教職員に学校法人神戸学園グループから台湾バナナが届けられ、2月22日(水)、持留小学校において贈呈式がおこなわれました。これは、蒋惠萍グループ総長の母国である台湾と日本の友好関係の発展と、子どもたちに台湾の食文化にふれてもらいたいという趣旨で寄贈されたものです。本町は、東京オリンピックの際に台湾のホストタウンとなるなど交流を続けています。

受け取った児童たちからは「おいしい～」と笑顔がこぼれていました。

